

奥深い戦略の妙

シャフルボード

★ ★ イライイ2003 ★ ★

反版記者体験記

国際航路の甲板上にルーツがある紳士淑女のスポーツが、横浜の中高年に親しまれている。北風が吹く中でも熱中できるスポーツ「シャフルボード」に挑戦してみた。記者が体験してみると基本は意外と簡単。しかし、対戦となればかなり奥が深そう。年齢を問わずに誰でも楽しめるスポーツの魅力を探った。

(三木 崇)



薩川さん(右)から手ほどきを受けながら、狙いを定めてシュートをする記者。コントロールと力加減が難しい。 〓横浜市都筑区、葛が谷公園(映像センター・大河原 雅彦)

国際航路の甲板に起源の手軽さ受け人気

都筑区の葛が谷公園。ここに国内では最大規模の十二面のシャフルボード・コートが整備されている。長さ約十二メートル、幅約一・八メートルのコンクリート製。側面に三角形の内部を区切った得点エリアが描かれている。競技は一方の端からキューと呼ばれる

れる金属製の棒で、直径十五センチのディスク四枚を押し出し、入れた得点を競い合う。ビリヤードと氷上のスポーツ、カーリングを掛け合わせた印象だ。記者が手ほどきを受けたのは、約八十人の会員が加入する日本最大のシャフルボード同好クラブ「横浜シャフルボード協会」(鶴岡二朗会長)。講師役を快く引き受けてくれたシャフルボード歴二十年で技術指導担当の薩川俊三さん(左)〓緑区東本郷から、キューの持ち方など基本フ

ォームの手ほどきを受けた。なんと十センチほどの先に当たるようにしたところで「実際に対戦してみよう」と薩川さん。相手は、シャフルボード歴三年の同区在田東の主婦堂園みよ子さん。ルールは、七点から十点まである得点エリアの中で手前の狭い場所に入れるほど得点が高くなる。しかし、一部に減点されるスポットも設けられている。つまり、得点エリア内のディスクを確実にするとともに、敵のディスク

手前にディスクを置き、ガードを固めた。「戦略が必要なんですね」。記者が気付いたときには、もうダブルスコア。それでもすぐに狙ったところに届くようになり、記者も徐々に自信がついてきた。 「布石」がいつも有効ではない。状況に応じて攻撃の方法を変える戦術も必要だ。狙いは相手の布石だったが、さらに手前に止まっていた自分のディスクを弾いた。堂園さんのディスクが十点減点に。結果として

クを得点外の場合に弾くか減点スポットに入れることが勝利の秘訣だ。

先攻の堂園さんは、得点エリアよりも手前にディスクを止めた。「布石」を打っているのです」と薩川さん。記者が狙い損なってしまっただけ、その訳が分かった。

堂園さんは布石の影になる得点エリア内にディスクを打ち込み先制。失敗を続ける記者をよそ目に、次に

◆十九世紀には英国とオーストラリア間の定期船の甲板で遊ばれ始め、世界中を航海する大型客船のデッキスポーツとして親しまれている。市が運営、管理する都筑区のコートでは国際大会も二度開催された。プレーをする際には必要な道具類は市が用意しているので、楽しめる。

「横浜シャフルボード協会」は初心者講習会を三月二十九日、四月二十六日の毎週土曜日午前九時半、正午、同所で開催する。参加無料。申し込み、問い合わせは西本敬さん〓045(942)6107、薩川さん〓045(4712)8098。ホームページのアドレスはhttp://poup2.tok2.com/home/ysa/

ようやく一矢を報いることができた。しかし、十六フレームが終わってみれば十九対百二十六で、点差は百点以上開いていた。 会長の鶴岡さんは「地形や風の影響など運不運も働くことが楽しい。偶然や戦術によっては初心者やベテランを負かすこともある」と話す。 七つの海を渡って横浜に伝わってきた「頭脳スポーツ」の魅力に、記者もうなずいた。